

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡県福岡市博多区西月隈3-3-54		
自己評価作成日	平成27年2月8日	評価結果確定日	平成27年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気の中で介護や支援を行いながら、さらに入居者様に楽しんで頂ける様にレクリエーションに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットからなる「グループホーム花みず木」は、「ACS(アムニティ・ケア・サービス)」という法人が運営、自分が入居者になった時の事を考え、サービスに対していかに喜んでもらえるか?…を追求した事業所で、開設後すでに12年になる。市の中心部、高速道路のインターに近く、交通量の多い道路に面しており、場所柄、遠方への郊外レクリエーション(外出には特に力を入れており、月1回は行っている。)にも行きやすい。事業所の周囲には遮蔽物が少なく、明るい日が降り注ぎ、開放感に溢れている。地域との交流に難しさを感じているところはあるが、それでも秋祭り開催にあたっては、地域住民も駆け付け、イベントとして定着している。体操や作品作り、調理のお手伝いなど、入居者も楽しく生き生きと過ごしている。職員の熱意を感じる事ができ、一層の発展を予感させる事業所として、期待ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業方針や職員に反省や目標作成を行い、理念ともに実施に努めている。	地域密着型の視点も盛り込まれた法人理念は、事業所内に掲示され、職員にも浸透している。理念をもとに、年度ごとの事業所の基本方針、職員各自の個人目標も設定、「介護スタッフの3原則」を通して、事業所が目指す介護サービスのあり方も明示、全職員が意識して日々のケアを実践につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃活動や秋祭りを通して地域の方々と交流を深めている。 また、町内行事(小隈サロン等)のお誘いを受けている。	独自の地域性から、交流の難しさを感じる中で、事業所として秋祭りや餅つきを開催、出店やボランティアの演芸等により盛り上がり、地域住民の参加も多く、恒例行事として定着もしている。地域のクリスマス会への参加、中学校の職場体験、町内会の清掃活動などを通して地域との交流を図る。住民の方から収穫した野菜を頂くなどの交流もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議を通して、グループホームの説明や認知症に対する支援の在り方などを話し合っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催されている。 運営推進会議にて活動内容や様子の報告・外部評価の結果報告を行っており、サービスの向上に努めている。	平成26年度は開催が定着、町内会長、民生委員、包括職員らが出席、現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、参加者からは、地域の情報の連絡の他、意見(最近では、町内で協力できることについての提案など)のあり、サービス向上に生かしている。運営推進会議を、職員以外の方の目を通して、事業所の発展に向けて話し合う場と捉えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括センターの参加を得ている。その際、質疑応答などを行うなど行政との関係作りに取り組んでいる。	行政とは、保護のケースワーカーとのやり取りが多く、質問や相談を、窓口訪問または電話にて頻回に行っている。行政側から、身寄りのない方の入居の打診があったりもする。包括職員とは、入居についての情報交換や困難事例についての相談を電話で行い、適切なアドバイスをもらっている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修などで学んだ事を報告し、また、入居者各人の現状を把握して見守りにて対応している。	マニュアルが完備されている。日中は出入口の施錠はせず、センサーの対応がある。職員は、入居者の離脱傾向を把握、見守り等を行う事で、安全面に配慮する認識を共有している。実際に拘束は行っていないが、万一の場合の書類等の用意はあり、また研修を通して、スピーチロックも含めたところで、職員も理解を含めている。

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	車内での関連法について学ぶ機会をもうける事は、出来なかったが、常に、虐待はおこらないよう気を配って介護に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外の研修で、学んだ事を報告会という形で、スタッフと共有し、制度について、理解し必要に応じ活用出来るよう、努めている。	現在、成年後見制度の利用者がいる。家族に対して、入居時および随時職員より説明を行っている。実際に相談があった場合は、ケアマネジャーにつなげる体制はできている。	研修が行われていない。外部の研修を活用し、その伝達講習を行う事により、職員の理解が深まるものと思われる。また、相談を受け入れる体制も整っており、パンフレットを窓口に置くなどする工夫を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明を十分に行い、了解を得て確認書に署名して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情対応体制について説明、意見箱も設置しているが、実際は面会時や電話で話す際に直接話される事がほとんどで聞き逃さないように努め、昨年は、家族会で意見を頂く機会を設けた。 代表者、ケアマネ、管理者、スタッフ、一体となり対応に努めている。	職員が傾聴する事で得られる、入居者の願いや要望等に対しては、速やかに対応している。家族からは、面会や電話などで、多くの意見を吸い上げ、改善に結び付けている。家族は運営推進会議に出席していない現状ではあるが、家族会は年1回行われている。苦情に対しては、内容を記録して全職員が共有、改善策を講じる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや普段の会話などで意見を聞く機会をもうけている。 また、年に2回、施設長との面談があり、意見を聞く機会をもうけている。	ミーティングや随時の対話を通して、職員は、意見や気付き等何でも言える環境にある。また管理者はそれを積極的に運営に取り入れ、職員の意欲、安心感にもつなげており、信頼関係を築いている。最近の事例では、入浴やシーツ交換の曜日の設定の件などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮している。	採用選考において、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。20代から60代までの幅広い年齢層の職員が働いており、入職後のスキルアップ、資格取得の支援にも前向き。職員の特技を日常生活やレクリエーション(おやつ作り、切り絵、折り紙、美顔など)に生かす工夫もなわれている。安心して働ける職場環境を目指し、安定したサービス提供につなげている。	

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の受講やその報告会、社内研修により人権について考え業務に活かせる様取り組んでいる。	外部研修の参加と、その伝達研修が行われており、日頃管理者からの指導もある、職員は、入居者一人一人がその残存能力を最大限に活かす事ができるよう、その人らしさを大切に受け止める支援の実践に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせた、研修への参加や、日常、気がついた事などをその場で、指導などを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年よりグループホームの懇談会なども始まりより交流が活発になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から細かい事を聞き逃さず、情報を収集しスタッフ間で共有して関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所時、また、その後の来所された時などに傾聴した情報を共有し関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含め、現状の必要性和見極めながら努力をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝って頂いたり、共に生活していくなかで教え教わりながら、良い関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族共に会話を大切にして会話を大切にして信頼関係が深まる様努めている。		

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能なかぎり、家族や友人など関係者に協力頂いて支援をしている。	管理者および職員は、入居者の馴染みの場所や人、趣味などについて把握している。以前行った事のある町などへ個別に職員と出掛けたり、家族が美容院へお連れしたり…と、入居者が馴染んでこられたつながりを継続できるよう支援に努めている。麻雀や編み物などの趣味活動の継続支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係を築けておりそれに職員が加わりサポートしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いへ行くなど、関係を大切にしている。 また、病院などよりの連絡や相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、生活歴などを把握し状況に合わせて本人の思いに寄りそえるよう支援している。	入居者の思いや意向については、会議などにおいて、なるべくそれが叶えられるように、また職員の間で共有できるように、話し合いを行っている。事業所独自のアセスメントシートを使用して、基本は6ヶ月ごとに行う。日々の利用者の言葉や行動、仕草、表情などを通して、意思疎通が困難な方も含め、本人本位の支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後共に家族や各サービス担当者より情報収集し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録などをもとに職員間で話し合うなどして個々の現状を把握するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事を第一に、介護記録やスタッフの気づきや本人、家族の希望などもふまえて、担当者会議などで検討して計画作成をしている。	担当者による記録、かかりつけ医をはじめ関わる多職種からの意見、入居者や家族の要望などを含めて、作成責任者が介護計画としてまとめる。軌道に乗ったあとは6ヶ月に1回または随時見直しをし、その都度家族への説明を行う。計画の内容は職員が共有、援助項目についての実践状況を記録する事で、日々のケアに活かされている。	

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画をもとにした日々の記録によりケアの実践を検討し計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの要望に対し、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議や行事に参加、して頂いて、会議協力をえている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で24時間往診可能な体制を取っている。また、定期的に訪問歯科や個別に他科受診が受けれるよう支援している。	提携医による月2回の訪問診療や週1回の訪問歯科もあり、緊急時の対応も可能で、急変時も安心できる対応が取られている。入居前からのかかりつけ医の受診も可能である。医師からの情報や薬の変更は、その都度聞き取って職員へも申し送りで伝達共有し、受診報告書や医療ノートに記載し、家族等へも電話等で連絡している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と、24時間連絡できる体制が出来ている。何かあれば、相談して適切な看護を受けられるように支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を設置し連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と協議しながら、当事務所の方針を理解して頂き、支援に取り組んでいる。	提携医のもとで、ある程度の対応はできても、看取りまでは出来ない事を、入居時に、事業所の方針として家族等へ口答で説明し同意を得ている。万一重度化された場合の相談支援体制は出来ており、医療機関や施設等への紹介等を行っている。	入居当初に、家族に重度化・終末期に向けた方針の説明を口頭にて行い、同意は得ていたが、事業所としての方針を明文化し(たとえば重要事項説明書等に記載するなど)、書面での同意を得る事が望まれる。

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置について、社内研修を行った他、訪問診療の医師や看護師に指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災避難訓練を実施している。また、災害訓練の実施や非常食の備蓄なども行っている。	消防署立会いで地域の方も参加し、夜間も想定して避難訓練を行い、スムーズな誘導で訓練が実施されており、その後に全員で話し合いを行い、今後の避難訓練に生かす取組が行われている。職員の緊急連絡網は整備がなされており、また1～2日分ではあるが、備蓄の保管もなされている。なお、平成15年に水害に伴う床上浸水とその避難の実体験を経ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や生活歴などを把握して親しみを込めつつも、個人を尊重した声かけを行っている。また、個人情報保護についての研修会を実施し、スタッフ間で共有している。	管理者は、「自分が入居者になった場合」を考えて行動するように、日頃から指導を行っている。外部研修への参加があり、内部への伝達講習も行っている。職員は接客マナーや応対に加え、尊厳やプライバシーの理解ができており、日頃の声掛け等は、その都度、職員間で相互に注意している。個人情報の管理にも留意している。	外出先等でも写真を積極的に取られ、家族にも送付し喜ばれているが、お便りや掲示物等の写真利用等に関しての同意を文書で交わされる事が望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを傾聴し、自己決定出来る様支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた、生活ができるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを活かしておしゃれが出来る様好みを把握し支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族からの情報をもとに個々に合った料理を職員とともに食べていただいている。また、準備から片付けまで一緒に手伝って頂いている。	入居時に好き嫌い等を確認、治療食にも対応可能。話し合いで2ユニット別々の献立表に基づき、現場で調理している。花見には豪華弁当を作るなどの行事での工夫をするほか、出前を取ったり、外食をしたりもする。定期的に家族から野菜の差し入れなどもあり、その日の食卓に並ぶ。入居者も、職員と一緒に野菜を洗ったり切ったり盛り付けたりと、積極的に参加され、楽しまれている。	

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態や能力に応じた対応をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを実施夜間は義歯の消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間毎のトイレ誘導やポータブルトイレの使用など、その人に合わせた排泄の支援に努めている。	チェック表を通して、全職員が入居者の排泄パターンを把握しており、適切な声掛けを行っている。紙パンツから布パンツ使用になった方や、パットの使用枚数が少なくなった方など、改善が見られる。日常的に周囲に配慮した声掛けで自尊心に配慮し、自立に向けた支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や食事、水分補給などで予防・改善に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調や本人の希望を考慮し、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週2~3回の入浴が基本だが、時間を含めて柔軟に対応している。本人の希望で毎日19時に入浴されている方もいる。毎回湯は入れ替えており、好みの湯温で入浴できる。車いす利用者は職員2人で安全面に考慮。入浴を拒まれる入居者には、時間をずらしたり、職員を替えて声掛けしたりして対応する等の工夫をしている。入浴時に皮膚管理を行い、軟膏塗布も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂ける様、照明や足音などに気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の説明で全員理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字教室、生花教室、などを実施。日常でも裁縫の得意な方に裁縫をお願いするなど特技を活かした役割を分担している。		

H26自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や近所の散歩などを行っている。外出レクなどでも地域の方やご家族・友人などの協力を頂きながら、外出を楽しんでいる。	天気の良い日はほぼ毎日近隣公園に散歩に行き、月1回は郊外レクレーションがあり、遠方までも出かける。食材の購入時に2~3人の入居者も一緒に出掛けたり、買物や入院の見舞い等に個別対応で外出されたりと、機会が多い。ボランティアや家族の協力もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、保管庫預かりとしているが、本人の希望により使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望により、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、飾り花や壁画を変えて提示している。	リビングは日当たりも良く開放感がある。時節柄、色とりどりのさげもんが天井から吊るされ、季節感とともに明るく華やいだ雰囲気を醸し出している。入居者の習字や写真、入居者が生けた花も随所に飾られていて、温かみがある。入居者も、ゆったりとテレビを見たり、語らったり背れており、和やかな場になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室や玄関のベンチですごせるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家電などを持ち込んで頂き、居心地のよい居室作りに取り組んでいる。	約6乗の明るい居室は、洋室か和室かを選択できる。各居室にはクローゼットがあり、必要に応じて、居室内入口の両側に手摺りが設置され、安全に配慮されている。ベットは持ち込み自由である。直筆の絵や人形や写真、仏壇、三面鏡、テレビ等が持ち込まれ、使い慣れた物や好みの物を通して、思い思いの個性的な部屋づくりをされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を活かした身の回りの事が出来るよう安全に配慮した自立支援をしている。		